



木喰さん

滝 よし子（友の会会員）

仏像といえば『広辞苑』に「仏教の礼拝の対象として造られた仏の彫像・画像。仏陀以外の菩薩・明王・諸天にもいう」とあり、路傍の石仏から国宝や重要文化財の仏像など実に様々です。作者も歴史上有名な仏師から、はたまた地方の名も無き仏師もいたであろうことは想像に難くありません。

中でも江戸時代の前期に活躍した円空と後期に活躍した木喰五行（木喰戒を授かった修行僧を木喰、木喰上人などといい、近世を通じていろいろな人物が名を残しています。以下では、木喰五行を指して単に木喰と表記することにします）は、仏師というより修行僧、あるいは廻国僧でした。昔は辺鄙な田舎では医者にかかれなかったので、彼らが祈禱僧として医者のかわりになりました。そして庶民の求めに応じて身近な木材を利用し、仏像を彫刻して与えたのです。

板野町の藍染庵には、木喰の残した如意輪観音像が祀られています。軽く頬に手を添えた姿から、地元では歯痛の神様として親しまれてきました。

木喰（享保3年～文化7年、1718～1810）は、甲斐国巨摩郡丸畑村（現在の山梨県南巨摩郡身延町古閑字丸畑）の出身です。22歳で出家、45歳で木喰戒を受け、56歳で廻国修行の旅に発ち、60歳を過ぎてから仏像彫刻を始めたそうです。木喰会編『木喰仏巡礼』をみますと、全国では611体が確認されており、四国では6体、うち1体が藍染庵のもので、大変貴重であるといえます。

ところで、この如意輪観音像はいつ頃造られたの

でしょうか。木喰は天明7年（1787）と寛政11年（1799）の2回、四国八十八箇所を巡礼していますが、どちらのときの作かは不明です。私は平成2年（1990）に調べてみたのですが、そのときは全くわかりませんでした。また、数年前にも四国大学の須藤茂樹先生が調査してくださいましたが、このときも年代は明らかにできませんでした。いつしか月日は流れ、最近になって10数年前に地元の古老から聞き書きした話を思い出しました。以下は聞き書きからの引用です。

私が年寄りから聞いた話ですが、この庵（藍染庵）に木喰さんが一週間ほど泊まっていたそうです。地域の人が歯を腫らして難儀していたら、歯を治してくれたりしたそうです。大正年間（1912～1925）に、五百羅漢が焼けて新しく仏像を作り直して色を塗る時、藍染庵の木喰さんも、ついでに塗ってと持って行ったところ、目をつむっているのに目を開けたそうです。塗料を落とせば目はつむっているはずで（森本嘉訓『板野町歴史研究会だより』）

以上の聞き書きから、当初は閉じていた眼をわざわざ開いた形に変え、唇などに色を塗ってしまったことがわかります。『木喰仏巡礼』では、この像の制作期を寛政11年（1799）7月21日と記していま



如意輪観音像



如意輪観音像 (拡大)

す。かつてはお像のどこかに年号などの墨書が
あって、それが塗りつぶされたのではないでしょ
うか。後世に着色された仏像は他にもたくさん
あり、県指定文化財の仏像など、住職が必死に
なって着色を落とした例が知られています。今
回、改めて地元の伝承の大切さを感じた次第
です。

(参考文献)

- 新村出編 (2008) 『広辞苑 第六版』 岩波書店.
- 木喰会編 (1984) 『木喰仏巡礼』 有峰書店新社.
- 森本嘉訓 (2000) 「木喰さん」 『板野町歴史研究会だより』 滝文庫.

友の会行事報告

深淵の自然観察

- 日時 5月23日(土)
- 場所 三好市東祖谷深淵
- 担当 行成正昭・徳野壽治(友の会役員)、
山田量崇(博物館学芸員)、鉄谷雅史(博
物館主任)
- 参加者 19名

前回は平成25年6月9日(日)の実施でしたが、梅雨期ということもあって雨に見舞われ、ウスバシロチョウもほとんど観察できませんでした。

今回は梅雨期を避けて、ウスバシロチョウの観察にベストな5月下旬に計画しました。その甲斐あって当日はすがすがしい快晴となり、ウスバシロチョウ

ウが飛び交い、祖谷の自然を存分に満喫することができました。

(鉄谷雅史：博物館主任)



解説する行成さん

Vo!c'e 参加者の声

●新居正利さん

50歳を過ぎてからは、車で遠出をすることが億劫になりました。祖谷まで行ったのは10数年ぶりでしょうか。普段、平地では見られない樹木や昆虫、特にウスバシロチョウがじっくり観察できたのはよかったです。また、捕虫網を持って昆虫採集したのはほぼ50年近く前で、童心に返り、脳も体も若返ったような気がしました。機会があればまた行きたいです。

●蘆田悠日さん

このかんさつ会は2回目で、1年生のときはウスバシロチョウが2ひきぐらいだったけど、3年生のときは10ひきい上でした。また、見たことがない



虫はいるかな

虫がたくさんいてすごく楽しかったです。次のかさつ会がたのしみです。

●工藤 葵さん

天女の羽ごろもを思わせるウスバシロチョウは、先生が言うとおりにきれいでした。去年より今年の方が数が多いと言っていたのでうれしかったです。バスに乗りながらけしきを見るのもすごく楽しかったです。ウスバシロチョウを1ぴき持って帰ったら、二日でしんでしまったのでざんねんです。でも、つかまえるのはすごく楽しかったです。

●藤原 寛さん

深淵は初めてでした。到着してまもなく、僅かな日差しでウスバシロチョウが飛び始めました。写真を撮りたかったのがよい条件でしたが、たくさんの種類の蝶を観るには日差しが足りなかったようです。私的には久しぶりに観ることができ、写真も撮れて満足でした。次回は花に来るウスバシロチョウを撮影したいと思いました。



ウスバシロチョウ



参加者の皆さん

友の会行事報告

古代の繊維を取ろう

- 日時 6月28日(日)
 ○場所 博物館実習室
 ○担当 中村由香(友の会役員)、小川 誠(博物館学芸員)、鉄谷雅史(博物館主任)
 ○参加者 19名

梅雨期ということもあり、当日は雨が心配されましたが、幸いにも晴天となり、予定通り屋外でカラムシの茎を採取することができました。

実習室に戻ると、ハンマーで茎を叩き、スクレイパー(へら)で皮を削り、中の繊維を取り出していく地道な作業を根気強く続けました。

茎の形がなくなり、繊維だけが残って作業は終了しました。それぞれの家庭で天日干しをして繊維を完成させるため、容器に入れて持ち帰っていただきました。

(鉄谷雅史：博物館主任)



カラムシの茎を採取します

Vo!c^e 参加者の声

●中村由香さん

今回は、カラムシから繊維を取り出すということで、まずは小川先生からカラムシについて教えていただき、カラムシ以外にも大麻やコウゾから繊維が取り出せることを知りました。最初に繊維が取れる植物



枝を切り落としていきます



ハンマーで茎を叩きます

を発見し、^{たた}叩いたり水に漬けたりすることで、繊維が取れることを知った人たちはすごいと感心しながら作業をしました。作業は思ったよりも難しく、外皮の茶色の部分をきれいに削ったり、叩いたりして落としていくのに時間がかかりました。少しずつ内側の白い繊維が見えてくると、うれしくなって熱中してしまいました。参加されている方と見比べて、「きれい」、「上手ね」などと声をかけ合い、とても楽しかったです。

●^{ひら おじゆん こ}平尾 順子さん

身近に生えているあの草が、大昔の布の材料であったことに感動し、作り方の大変さを知って、いつも着ている服のありがたみを実感しました。材料や道具も簡単に手に入るものだったので、夏休みになったら娘と一緒にチャレンジしようと思います。

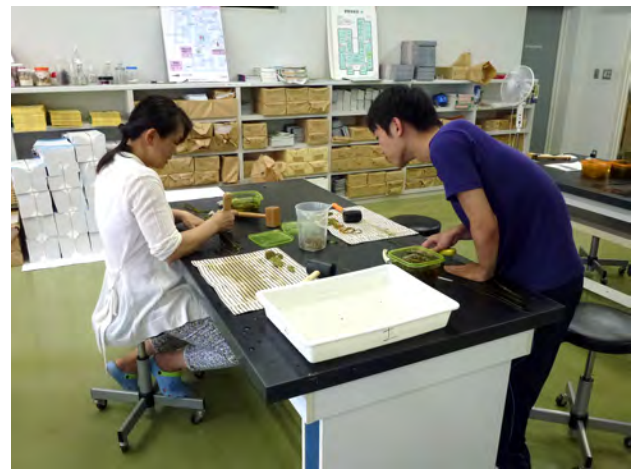
●^{おがたい しん}小方 惟心さん

この行事でぼくは、昔の人がどんなに大変だったのかを知ることができました。まず、カラムシを取

りに行かないといけません。それから、皮をむくのも表面のよごれを取るのも時間がかかります。ハンマーでたたいて洗うのを何回もくりかえすなんて、大変なことだと思いました。だけど、植物から糸が取れるのはすごいなと思いました。

●^{おもては ひろ き}表原 宏樹さん

繊維の歴史や取り方について知ることができて楽しかったです。木の皮をきれいに剥いたとき、白い繊維にすることができたときは感動して、心の中がいっぱいになりました。先生も周りの人も優しく、楽しく作業をすることができました。



スクレイパーで皮をこそげ取ります

友の会行事報告

脇町を歩く
～稲田家ゆかりの地を訪ねる～

- 日時 9月26日(土)
- 場所 美馬市脇町
- 担当 ^{おおすぎよう こ}大杉洋子(友の会役員)、^{まつながともかず}松永友和(博物館学芸員)、^{てつたけし}鉄谷雅史(博物館主任)
- 協力者 ^{すみよし}松永住美(講師)、^{いわもとえいじ}岩本英慈(友の会会員)
- 参加者 19名

うだつの町並みでは講師の松永住美さんや会員の岩本英慈さんから、地元の方ならではの詳しい解説をしていただきました。

東林寺では住職ご夫妻やお孫さんから温かいお接待を受け、庭園を眺めながら脇町の歴史にまつわるお話をさせていただきました。

稲田家墓所では蜂須賀家の阿波入国によって脇城を守るようになり、やがて淡路国洲本城へ拠点を移していった稲田家の歴史を偲びました。

(鉄谷雅史：博物館主任)



解説する松永さん

Voic^e 参加者の声

●岩本英慈さん

多くの方々にお越しいただき、ありがとうございました。脇町に住んでいると、文化や歴史的な価値は気付きにくいものです。今回の見学でも、先生方や会員の方々のご指導により、新しく知識等を得て楽しい見学になりました。特に印象に残ったのは、脇城から舟で水路を下って吉野川に集結し、関西方



うだつの町並みの見学

面へ出陣したという臨場感が味わえたことです。今後のボランティアガイドに生かそうと思います。

●松家京子さん

稲田家ゆかりの地を訪ねるというサブタイトルに惹かれて申し込みました。脇町出身なのに全く知らなかったのです。今回、稲田家の信仰が厚かった東林寺や菩提寺の貞真寺を感慨深く訪ねました。特に貞真寺の唐破風の妻入り山門は崩れかけていましたが、当時はさぞ美しかったのだろうと推察できました。火事で焼失したという本堂の再建が始まっている様子で、よかったなと思いました。かつての脇城を見上げる場所に稲田家墓所がありました。今回城跡へ行くことができなかつたのは残念です。貞真寺の南側は「大屋敷」という地名で、かつては稲田家の屋敷があったそうです。歴史は地名に残ることを再認識しました。新しい脇町を知ることができて、充実した一日となりました。



東林寺の見学

●住友セツ子さん

脇町はよく出かけていると思っていましたが、今回の行事に参加させていただき、まだまだ未知の世界があることに気がきました。稲田家にまつわる東林寺のすばらしさ、藤桃斎のふすま絵、枯山水の庭園にある鶴と亀の島など。諸先生方の説明で、短いながらも有意義な時間を過ごすことができました。

●阿部萬里子さん

お天気にも恵まれて、幼い頃を思い出す様々なたずまいの脇町を訪れました。うだつの町並み、東林寺の枯山水、住職様の説明とお孫様のかわいい接

待を受け、ほっと一息。稲田家の墓所を参拝し、のどかな田園風景を巡りながら、稲田家の栄枯盛衰を感じさせる一日でした。



稲田家墓所の参拝



貞真寺山門の見学

ウミホタルの発する幻想的な光を観察することができました。

今後は参加された会員の皆様が、地元近くの海でウミホタルを見つけてくれることを願うばかりです。
(鉄谷雅史:博物館主任)



トラップを説明する中尾学芸員



トラップを仕掛けます

友の会行事報告

ウミホタルの観察会

- 日時 10月3日(土)
- 場所 鳴門市大毛島おおげじま
- 担当 行成正昭(友の会役員)、中尾賢一(博物館学芸員)、鉄谷雅史(博物館主任)
- 参加者 32名

9月28日(月)の下見では、スーパームーンの影響で観察が非常に困難だったのですが、当日は月が雲に隠れて見えなくなる好条件に恵まれ、全員が

Vo!c'e 参加者の声

●住友セツ子さん

夜空の美しい星を眺めながらの観察、初めて見るウミホタルの美しい光に感動もひとしおでした。夕方の海風は少し寒い気がしましたが、そのうち風もやみ、波止場で釣られたイワシの元気な姿に歓声を上げました。今日は二重・三重の喜びをいただきました。

●小方惟心さん

去年も参加しましたが、そのときとはちがう場所



青く光るウミホタル

にトラップをしかけました。しかし、去年よりもとれた数が少なかったです。ウミホタルの青くぼんやりした色は、とてもきれいだなと思いました。トラップをしかけた場所によってウミホタルの量がちがうのもおもしろかったです。たくさんとれる場所をさがしてみたいと思います。

●^{ありともき}有井智紀さん

ぼくはウミホタルを知らなかったので、はじめて見たときは「きれいな生きものだな」とおどろきました。先生がくわしくせつめいしてくださったので、ウミホタルについてとてもよくわかりました。



参加者の皆さん

『アワーミュージアム』への 投稿のお願い

アワーミュージアムへの投稿原稿を募集しています。身近なおもしろいネタ、旅行に行つて発見したこと、博物館や展覧会等の見学記などなんでも結構ですので、お気軽にお寄せください。

2015年度の行事を振り返って

鉄谷 雅史 (友の会事務局)

今年度の行事も、2月27日の「梅見ハイキング」(神山町阿野)を残すのみとなりました。会員の皆様におかれましては、友の会事務局に対しまして温かいご指導・ご助言をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、事務局としては、「友の会行事に参加する子どもさんをいかに増やすか」ということが課題と考えています。小学生の頃はよく参加していたのに、中学生や高校生になって部活動をするようになり、参加しづらくなったというケースは以前からあったようです。また、核家族化や一人っ子の増加など、いろいろな人と関わる経験が少なくなったのも懸念されるところです。

そこで、今年度は行事ごとに世代別の参加者数を把握し、来年度の行事を計画する際の参考とすることにしました。これまでに実施、あるいは中止した行事の参加者数を以下に示します。

- ①深淵の自然観察 (一般 17名、小学生 2名)
- ②古代の繊維を取ろう (一般 12名、大学生 1名、中学生 1名、小学生 5名)
- ③虫送りを見に行こう (一般 8名、中学生 1名、小学生 1名)
- ④脇町を歩く～稲田家ゆかりの地を訪ねる～ (一般 17名、中学生 1名、小学生 1名)
- ⑤ウミホタルの観察会 (一般 21名、中学生 1名、小学生 8名、幼児 2名)
- ⑥奈良日帰り研修 (一般 38名、中学生 3名、小学生 4名)
- ⑦化石を探そう (一般 20名、中学生 3名、小学生 6名、幼児 2名)
- ⑧岡山・兵庫日帰り研修 (一般 28名、高校生 1名、小学生 3名)

今年度の行事を決めていく段階でイメージしたのは、誰もがいろんな地域から気軽に参加し、世代を越えてともに学ぶ姿でした。学校教育では実現が難しい地域間・世代間の交流が、社会教育の強みであり、魅力であると思います。大学生や高校生の参加は昨年度にはなかったことであり、中学生以下の子どもさんにとってよい刺激になったと思います。

梅見ハイキングの当日が、会員の皆様にとってよき日になることを願っています。

展示のご案内

鳥居龍蔵記念博物館 開館5周年記念企画展
鳥居龍蔵～世界に広がる知の遺産～

鳥居龍蔵記念博物館は、平成22年11月の開館以来、今年度で5周年を迎えました。今回、館蔵資料の全容把握がおおむね終了したことを受け、改めて鳥居龍蔵の生涯と業績を振り返り、遺された資料をもとに、その人物像を見つめ直します。



- 会 期 平成28年1月23日(土)～2月28日(日)
- 会 場 徳島県立博物館 企画展示室

【関連行事】

(1) 展示解説

- ◆日 時 1月24日(日)、2月7日(日)、2月14日(日) いずれも13:30～14:30
- ※申込み不要、観覧料必要

(2) 講演会

- 「鳥居龍蔵の再発見—国内外の視点から—」
- ◆日 時 2月21日(日) 10:30～17:30
- ◆会 場 文化の森 イベントホール
- ◆内 容 第1部「高校生が見た鳥居龍蔵Ⅱ」
第2部「海外から見た鳥居龍蔵とその資料」

※申込み不要、参加無料

展示のご案内

徳島県立博物館 部門展示
シカとカモシカ

似たような名前のシカとカモシカ。どちらも偶蹄類の獣ですが、実はそれぞれ別の科に属します。この展示では2種の違いや生活について詳しく紹介します。

- 会 期 平成28年1月19日(火)～3月21日(月・振休)
- 会 場 徳島県立博物館・常設展示室(部門展示室)



新刊紹介

【図録】阿波木偶箱まわしの世界—門付け、大道芸—

2015年10月31日から11月29日まで開催された企画展「阿波木偶箱まわしの世界—門付け、大道芸—」の図録を刊行しました。是非お買い求めください。

- 2015年10月27日発行、全79ページ
- 1冊1,500円(友の会会員価格1,350円)



アワーミュージアム 第57号

2016年1月31日発行：徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp